

病床管理一元化とPFQM実現に向けて 一入院 サポートセンター開設からのスタート

道洞 淳子¹⁾ 土下 由美子¹⁾ 長瀬 清香²⁾
池本 滋子³⁾ 西尾 優⁴⁾

- 1) 高山赤十字病院 入退院支援課
2) 高山赤十字病院 整形外科外来
3) 高山赤十字病院 看護部
4) 高山赤十字病院 入院サポートセンター長

【背景】

急性期入院医療におけるDPC包括医療制度が提唱され当院でもH18年に導入。入院期間が短縮され忙しい入院を余儀なくされるようになり無秩序診計画な入院が現状であった。現状を改善するために病院全体を把握し効率的・効果的に病床管理ができるよう病床管理の中央一元化を図り、医療の質を担保しつつ患者の入退院の流れをスムーズにするシステム(PFQM)を3年計画で導入。患者さんが入院中はもとより入院前から退院を見据え安心して医療が受けられるよう一貫して管理を行うために平成25年4月入院サポートセンターと病床管理を立ち上げ共に6月より稼動した。

【目的】

1. 病床管理一元化による効率的・効果的な病床管理 2. 患者サービスの向上(患者満足度) 3. 切れ目のない効果的な医療の提供(医療の質向上) 4. 効率化による業務負担の軽減(職員満足)

【方法】

第1ステップ: 病床管理の一元化。入院前オリエンテーション(予約入院)、持参薬管理。第2,3ステップ: 患者支援部門の充実。入退院病床総合管理センター体制確立。

【結果】

病床管理は中央一元化され効率的・効果的にベットコントロールされるようになった。入院前オリエンテーションは毎月平均200人以上実施され、その入院オリエンテーションレポートは電子カルテの当日トップページへリンクすることで病棟と情報を共有できるようになった。休薬指導は外科系が多く月平均120件以上。この他に患者からの相談は治療や手術に伴う食事に関することが多く、必要に応じ専門職員と連携をとり、入院前に解決し不安の除去に繋がった。

【今後の課題】

- ・当日入院や時間外入院患者へのオリエンテーションの実施
- ・現在入院サポートセンターと退院調整課が別の場所にあるため合同し同一場所における支援実施

キーワード: 病床管理の一元化、PFQM(patient Flow Quality Management)、午前退院・午後入院のルール化、全病棟師長による毎日定時の病棟状況伝達カンファレンス

One shot 長尺用FPDシステムの有用性

中岡 靖博 櫻野 壮太 伊藤 美佳
関口 慎之介 今井 丈晴 岩佐 成彦
坂本 清隆 中田 幸博
高山赤十字病院 放射線科

【目的】

2017年2月より装置更新に伴い、「AeroDR ROCKET EVOLUTION2(One shot長尺システム)」(以下、長尺FPDシステム)を導入した。岐阜県下では初めての導入であり、導入後撮影の効率化を図れたため、今日までの使用経験や有用性について報告する。

【使用機器】

コニカミノルタ社製AeroDR ROCKET EVOLUTION2 , Regius CS-7 Ver1.22

【概要】

今回導入した長尺FPDシステムは、17×17インチのFPDを三枚組み合わせることで長尺撮影を行う。長尺撮影を行わない時は、一枚をDRカセットとして使用し、残りは立位・臥位用のDetectorとして用いることができる。以前はCRを使用した長尺撮影を行っており、IP(11×14インチ)の詰め替えや画像読み取りなどに手間がかかり、画像確認に多くの時間を費やした。さらにカセット読み込み時のエラーにより、再撮影を行うこともあった。長尺FPDシステム導入後は、撮影画像をすぐに確認できることやIPの詰め替えがないことから、撮影のスループットが向上した。さらに、撮影補助具である手すりなども装置に付属しているため、撮影介助者を減らすことが可能となった。またFPDは、被ばく線量の軽減ができることから、再度撮影条件の見直しを行った。

使用上の注意点として、画像結合部に軽度のアーチファクトが生じること、DRカセットの重量化などが挙げられた。今回、画像結合部にアーチファクトが生じる原因や改善方法についても検討を行った。長尺FPDシステムには画像結合部自動調節機能があり、照射野内に専用の高吸収マーカーを置くことで、自動にマーカーを認識し、結合精度の向上が図れた。

【結語】

今回、当院での使用経験を報告した。装置導入により、長尺撮影のスループットの向上、被ばく線量の低減を行うことができた。今後、さらに撮影の効率化を図れるように検討していきたい。